

# 「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」について ～「滋賀の流域治水」との連携～

【提案先】国土交通省

## 1. 提案内容

「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」の施策の具体化にあたり、命を守る取り組みについての連携

- ①最大クラスの洪水および内水を考慮した浸水想定「地先の安全度マップ」の整備・更新における手法の構築
- ②住民の避難力の向上に向けた取り組みにおける国・県のサポート体制の構築
- ③安全な住まい方への転換による減災効果等の分析の実施

(平成 27 年 1 月 20 日 国土交通省公表)

## 「新たなステージに対応した防災・減災のあり方」 抜粋

### ■ 「3. 命を守る」取り組みの今後の検討の方向性

- 状況情報を基にした主体的避難の促進
  - 最大クラスの洪水・内水等に関する浸水想定を作成・公表
  - 住民の災害リスクの認知度の向上
- 避難勧告等の的確な発令のための市町村長への支援
- 災害リスクを踏まえた住まい方への転換

### ■ 「5. 具体化に向けて」

今後の施策の具体化にあたっては、必要に応じて地方公共団体等とも連携を図ってさらに検討を進めることとし、熟度があがったものから、順次実現を図っていく。

## 2. 提案の理由

- 毎年、全国で、大規模な災害が発生しており、早急な施策の具体化が望まれている。
- 滋賀県では、「地先の安全度マップ」の公表など、「新たなステージ」に即した取り組みを始めており、すぐさま現場における検証が可能。例えば、「地先の安全度マップ」による水害リスクの認知度の評価などが可能。
- 施策の具体化にあたり、国と連携を図り、本県としても、国の知見や技術的助言等をいただきながら熟度をあげていきたい。

大川川だけではなく、身近な水路のはん濫なども考慮した  
浸水想定マップ(10年、100年、200年に一度の雨)

「地先の安全度マップ」



## (本県の主な取組状況と課題)

### ■ 1 最大クラスの洪水・内水等に関する浸水想定を作成・公表

→平成 24 年 9 月 滋賀県全域において、最大クラスの洪水および内水氾濫を考慮した浸水想定「地先の安全度マップ」を作成・公表しています。

内水氾濫も考慮した浸水想定「地先の安全度マップ」



### ■ 2 住民の災害リスクの認知度の向上

→「地先の安全度マップ」を基礎情報として、住民自らが水害リスクを認識し、地域防災力向上に向けた取り組みを始めています。

→教育委員会とも連携し、防災教育も進めています。



### ■ 3 災害リスクを踏まえた住まい方への転換

→「滋賀県流域治水の推進に関する条例」に基づき、宅建業者が、不動産購入者に対して水害リスクに関する情報を提供しています。

→水害リスクを考慮した宅地造成も行われています。

→国土交通省河川砂防技術研究開発の「水害リスク情報を活用した新たなまちづくり手法の減災効果等の分析」を平成 27 年度より土木研究所 (ICHARM) と連携して実施する予定です。



H26.9.1 NHK ニュース「おうみ発 610」

施策の具体化にあたり、滋賀県との連携

取り組みの熟度を上げ、  
安全安心な国土形成に役立つ施策の実現